

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立 川越工業高等学校

# 定時制の課程)

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する。
--------	-------------------------

重点目標	1 基礎学力の定着をはかる。(最重点目標) 2 地域社会や家庭との連携を推進する。 3 進路実現を目指す。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	14名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2月1日 現在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>【現状】</b> ・外国人生徒や不登校経験者など多様な生徒が多く、授業に集中させ、学習意欲を引き出すため、各教科で授業の工夫がされている。 <b>【課題】</b> ・学習意欲を高め、基礎学力を定着させることが課題である。	○学習環境の整備と授業改善のための工夫  ○基礎学力の定着	①校内巡回指導を行い、規律ある授業を維持する。 ②ICT等の活用による授業改善により、授業への興味関心を持たせる。  ③生徒に対し、学習に関するアンケートを行い、生徒の理解度を把握する。 ④教科間の連携と学習サポーター・多文化共生推進員の活用により基礎・基本を徹底する。	①校内巡回指導を含め、規律ある授業を維持することできたか。 ②アンケートにより、生徒への効果があったか。  ③アンケートの結果を踏まえ、生徒の学習意欲、理解度の向上はみられたか。 ④教職員、学習サポーター等と協力し、相乗効果のある授業が実施できたか。	①校内は落ち着いた状態で授業ができています。 ②今年度、スクリーンを使用した授業がわかりやすいと答えた生徒は88.8%であった。  ③授業がわかりやすい77.4%→85.8%。授業の進み具合が合っている88.7%→88.6%。 ④1年生は教員とサポーターの連携強化により、基礎学力の定着が進んでいる。	A     B	○課題 ・校内の落ち着いた状態を維持し、ICTの活用による授業改善を更に推進する。 ・中学校までの基礎学力が定着していない生徒への指導を徹底する。 ○改善策 ・定期的に教科ごとの授業研究会を実施する。 ・少人数での良さを生かした授業を徹底する。
2	<b>【現状】</b> ・学校評価懇話会など外部との意見交換行い、HP等により情報を発信している。 <b>【課題】</b> ・HPの積極的な更新及び発信内容の充実と保護者が参加できる学校行事の情報発信が課題である。	○開かれた学校づくり  ○情報発信の時期・方法などの工夫	①学校評価懇話会での活発な意見交換や助言を活用する。 ②SSWの有効活用や外部の専門機関の積極的な活用を図る。 ③学校行事の案内を早期に発信し、保護者の参加を促す。 ④HPの更新回数を増加させ、保護者向け内容も充実させる。	①学校評価懇話会での意見交換を通して、本校の取組をアピールすることができたか。 ②外部の専門機関との連携強化ができたか。 ③保護者の行事への参加者が増加したか。 ④本校の取組をHPを通して、外部へ発信することができたか。	①学校評価懇話会に出た意見を全教職員で共有した。 ②SSWの積極的な活用により外部機関との連携が一層強化され、問題が解決された。  ③通知の早期発送を行ったが、参加者数は横ばいであった ④PTA通信のHP掲載0→11回、定時制ニュース更新回数23→87回、共に大幅増加。	A   B	○課題 ・学校外の機関との連携を更に強化する。 ・保護者の学校行事への参加者を増加させる。 ○改善策 ・組織的な取り組みを一層強化する。 ・HPや通知の内容を更に工夫する。
3	<b>【現状】</b> ・教職員間及び生徒と教職員間でコミュニケーションを図り、個に応じた進路指導を行っている。 <b>【課題】</b> ・規則正しい学校生活と早期から進路希望を持たせ、多くの生徒の進路実現を果すことが課題である。	○基本的な生活習慣の確立  ○生徒の自己実現に向けた進路指導	①登下校時に教職員が生徒への声かけ運動を継続して実施する。 ②各年次や生徒指導部を中心として、情報の共有を図り、生徒理解に努める。 ③分野別進路説明会への積極的参加、インターンバイトの活用、面接・履歴書指導等、早めの進路指導を行う。	①前年度と比較して、出席率が向上したか。 ②生徒理解を深めることができたか。 ③生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施することができたか。	①毎日登下校指導による声かけを行った。生徒出席率は88.4%→86.7%で横ばいであった。 ②研修会の実施により、支援の必要な生徒や進路の問題を抱える生徒への理解が深まった。  ③4年生35名中、4大1名、専門学校6名、就職15名。活動中8名、未定5名。	B  B	○課題 ・様々な問題を抱える生徒が、安心して通学できる体制を強化する。 ・進路実現率を高める ○改善策 ・教員間の情報共有を更に徹底し、生徒理解を深める。 ・1年次からの継続的な進路指導を徹底する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年 2月 8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎学力の定着」の基礎学力とは何を指しているのか明確にして、全教員で共通認識を持つことが必要だ。</li> <li>・学力をつけることは大切。それとともに社会に出て必要になる、現場でうまくやっていく力を身につけさせて欲しい。</li> <li>・コミュニケーション能力を強化する取り組みがもっとあってよいのではないか。</li> <li>・定時制では学校に関心のある保護者が少ないようだが、それらの保護者に学校に関心を持ってもらうためには、どうしたらよいか考える必要がある。例えば、保護者が楽しみにするような機会を作るなど。</li> <li>・学校に来られない生徒に対していかに対応するかが大事だ、現在の取り組みを更に強化して欲しい。</li> <li>・せっかくのキャリアデザイン授業なので、これを有効活用して、生徒に将来の目標を持たせて、卒業後の進路未定者を減らして欲しい。</li> </ul>	